

第 12 次長岡市交通安全計画（中間案）に関するパブリックコメントの実施結果

1 概要

- (1) 募集期間 令和 8 年 6 月 1 日（月）～ 令和 8 年 6 月 12 日（金）
- (2) 提出方法 持参、郵送、FAX、メール、電子申請
- (3) 意見状況 提出者数 3 名（提出方法 電子申請 2 件、持参 1 名）
- (4) 提出意見 20 件

2 寄せられたご意見と市の考え

No.	意見・提案内容（要旨）	ページ	市の考え
1	（１）「超高齢社会『の到来や超少子化への対策の観点』を踏まえた安全安心の確保」とするべきである。 利用しやすい安全な道路環境（車道・歩道その他）は、家族連れや親子連れにとっても大切なものであり、日々を暮らしやすくする大変意義のあるものである。子供の幼稚園の送り迎えでは、大通り沿いを歩く怖い場所、街路樹もなく吹きさらしで夏暑く冬寒い場所、車が減速しない交差点、見通しの悪い横断歩道など、交通弱者・制限のある立場での不安や危険を常に実感しており、そのたびに、これが改善されれば子育てがしやすくなるのにな、と感じている。高齢者保護だけでなく少子化対策としての交通安全という側面にも、これからの時代はどうか注目してほしい。	1	ご意見のとおり、交通安全の確保は高齢者のみならず、子どもや子育て世帯にとっても重要であり、安全で利用しやすい道路環境の整備は、子育てしやすいまちづくりの観点からも大きな意義があると認識しております。 本計画においても、通学路や未就学児の移動経路の安全対策など、子どもを含む交通弱者の安全確保を重要な視点として各施策に位置付けております。 ご意見をふまえ、本文の内容を以下のとおり修正しました。 「高齢者をはじめ、子ども等の交通弱者が安全かつ安心して外出や移動できるような交通社会の形成が必要です。」
2	「高齢者が主として歩行及び自転車、電動車いす『、公共交通』等を…」とするべきである。 路線バスの減少等により、自動車運転免許の返納と「歩行」の前提となる公共交通の利用環境を踏まえれば、ここにも「着目し、…特性を理解した対策を構築」しないと、総合的かつ適切な交通安全対策を講じることはできないと考える。特に冬には、バス停が雪で利用停止に	1	ご意見をふまえ、以下のとおり修正しました。 「高齢者が主として歩行及び自転車、電動車いす、公共交通機関等を交通手段として利用する場合と、自動車を運転する場合の相違に着目し、それぞれの特性を理解した対策を構築しなければなりません。」

	なったり、高く脆い雪壁に阻まれて降車後に歩道に上がれないなどの状況が生じており、私のような親子連れ（幼児とその親）だけでなく、高齢者も大変苦労している。また近年、初夏から晩夏にかけて、気候変動により極めて暑く過酷なバス待ち環境が当然のようになっており、日陰を作る雁木や道路に近い建物も減り、街路樹も減って、公共交通の利用環境が一年の半分以上危険な状態になっている。このまま歩行の安全対策を考えてもごく一面的な取り組みのみになってしまうのではないか。（p.5の「高齢者が安全に、かつ、安心して外出や移動できるような交通社会の形成が必要です」という文章を見ても、歩行や外出・移動の主要な手段のひとつである公共交通を含めた書き方にするのは妥当だと考えられる。）		
3	前項と同様の理由から、「（2）雪国の特性『や気候変動による酷暑化・多雪化』に配慮した…」とすべきである。 バス停だけでなく歩行者環境も非常に過酷であり、一年の半分近くが酷暑、残り半年の半分が雪や寒風という状態なので、こうした点にも着目しないと真に安全を確保できる計画にならないと考える。実感としても、特に歩行の遅い幼児を連れての移動、暑さ寒さに弱い乳児を連れての移動の際には、親子とも身の危険を感じるような環境になっているところがある。下手をすると4月から10月まで半年以上暑すぎる日があり、12月から2月は雪や寒さ、圧雪と凍結の季節なので、落ち着いて歩ける期間がほとんどない。なんとか対策してほしい。	1	本計画では、雪国の特性を踏まえた安全で快適な生活道路の整備を基本理念とし、歩行空間の整備や冬期の道路交通確保などを通じて、年間を通じた安全な移動環境の確保に取り組むこととしています。 近年の猛暑による歩行環境の悪化も課題と認識しておりますが、「雪国の特性」には地域の気象条件全般を踏まえた安全確保の視点を含むものとし、原案のとおりとさせていただきます。 今後は暑熱環境への対応も含め、年間を通じた安全な移動環境の確保を検討してまいります。
4	「住民や地域団体、企業等が地域の課題『』解決を共通の目標として掲げ…」と、「の」の重複を減らした方が読みやすいのではないか。	1	ご意見のとおり、以下のとおり修正しました。 「住民や地域団体、企業等が地域の課題解決を共通の目標として掲げ」
5	「地域力と組織力『を組み合わせる』総合的な対策を推進…」とした方が文章としてまとまりが良いのではないか。	1	ご意見のとおり、以下のとおり修正しました。 「地域力と組織力を合わせて総合的な対策を推進」
6	「マスコミ」ではなく『メディア』とした方がよいのではないか。 高齢者事故についてはインターネットやSNSも含めて話題になってお	5	ご意見をふまえ、表現の趣旨がより伝わりやすくなるよう「報道等」に修正しました。

	り、マスコミに限られない。		
7	「弱い立場にある歩行者、特に子どもや高齢者『、家族連れ』にとって身近な道路の…」としてほしい。 幼児を連れた親、乳児を抱いた親も「弱い立場」の存在である。	5	ご意見のとおり、幼児を連れた保護者や乳幼児を抱えて移動する方は移動に制約があることから、交通安全上、配慮すべき対象であると認識しております。 本計画においては、子どもを含む交通弱者の安全確保を重要な視点として各施策に位置付けておりますが、こうした子育て世帯の状況についても含まれるものと考えております。 ご意見をふまえ、以下のとおり修正しました。 「弱い立場にある歩行者、特に子どもや高齢者等にとって身近な道路の」
8	気候変動による酷暑化・多雪化への対応として、歩道への屋根（雁木）の設置や街路樹の植樹、消雪融雪設備の設置など、「歩行者の安全確保を図る対策」に含めてほしい。 歩道があるだけでは、特に近年整備されるような広々とした車道の横に広々とした歩行者空間を付けるだけでは、日射や風が遮られず、近隣による除雪や融雪もされず、「歩行者の安全」は「確保」されない。これは実感としてもそうである。	5	気候変動による酷暑化や降雪状況の変化を踏まえ、歩行者の安全で快適な通行環境の確保は重要な課題であると認識しております。 ご提案のありました雁木の設置や街路樹の整備、消雪・融雪設備の導入などについては、歩行環境の質の向上に資する取組であると考えられますが、設置条件や維持管理、コスト、沿道状況等を踏まえる必要があります。 本市としては、既存の道路空間の状況や地域特性を踏まえながら、歩行者が安全かつ安心して通行できる環境の確保に向け、いただいたご意見を今後の施策検討の参考とさせていただくとともに、関係部局と連携し総合的に検討してまいります。
9	自転車については、ルール順守やマナーの向上だけでなく、ハード・ソフト的な取り組みも必要である。例えば、自転車ラインの設置、自転車歩道通行可の拡大や明示、回遊性の向上などである。自転車ラインや自転車歩道通行可の指定・明示がないことで、特に狭い路肩を自転車で走っていて危険を感じることもある。また駅周辺は自転車の回遊性が悪く、遠回りとなるガードでスピードを出したり、アーケードや雁木内でジグザグ運転をしたりする自転車が見られる。自転車なら徐行で済むと	6	自転車の安全確保には、ルール遵守やマナー向上に加え、安全な通行環境の整備が重要であると認識しております。 自転車通行空間の整備等は、交通状況や道路条件等を踏まえた検討が必要であり、長岡駅周辺では、総合的な安全性から自転車の歩道通行を認めています。 一方、自転車は歩行者の安全に配慮して走行する義務があり、安全確保のため、迂回や一時停止の必要性についてご理解くださ

	ころ、一時停止をすればかえって危険になるような交差点もある。適宜の見直しが必要ではないか。		い。
10	一文だけ「である」になっている文があるので、「です」に直した方がよい。他ページにも同様の文があれば修正して頂きたい。	8	ご意見のとおり、以下のとおり修正しました。 「令和3年に増加してから横ばい傾向で、令和7年度に249件あったものの減少が緩やかな状態となっています。」
11	増加するゲリラ豪雪時等の除雪に支障のないよう、市道における新設制限の一方で拡大している私有駐車場等の消雪パイプについて、必要以上の散水への注意喚起や指導を行い、地下水の節水に取り組むべきである。 また、節水計画の策定や進展を前提として、許容される範囲内で市道への新設制限を緩和し、通学路以外の道路や車道も含めた市道への新たな消雪パイプの新設に舵を切るべきである。過剰な散水は豪雪災害時の対応の選択肢を狭めるおそれがあり、適切な範囲で規制されるべきである。 一方、適量の散水は冬季の安全確保や経済活動に不可欠であり、地下水資源の保全を通じて保護すべきである。あわせて、県内のグリーンエネルギーの時間帯的余剰分、データセンターやごみ焼却施設等の排熱を有効活用し、消雪パイプ散水の事前加温、ロードヒーティング、赤外線融雪等の地下水資源に依存しない「新しい克雪」の検証を進めるべきである。	1 2	地下水の適正利用と消雪機能の確保は重要な課題であり、本市では消雪施設の適切な運用・維持管理と地下水保全に配慮した取り組みを進めています。加えて、持続可能な除雪・融雪体制の構築に向け、新技術導入や運用見直しをコストや効果を踏まえて検討していく必要があると考えております。 いただいたご意見は、今後の除雪・融雪施策の推進にあたり、参考とさせていただきます。
12	持続可能な移動手段の確保・充実について、「地域の輸送資源の総動員による」だけでは、新しいモビリティも含め検討するという既存方針に合致しないため、『などによる』『総動員』『や新設による』など何らかの修正が必要ではないか。	1 3	「地域の輸送資源の総動員による」という表現には、既存の公共交通機関に限らず、地域の実情に応じて活用可能な多様な移動手段を検討する趣旨を含んでいることから、ご意見の内容は原案に包含されているものと考えております。 なお、ご意見の趣旨については、今後の施策検討にあたっての参考とさせていただきます。
13	道路拡張など都市整備の際に、景観や史跡への配慮が重要である。そうした配慮をしておくことで、将来事故が発生した場合でも「計画が	1 1 1 4	ご指摘のありました景観や史跡等への配慮につきましては、その重要性について認識しております。本計画では、交通安全の

	不適切だったのではないかと」いった不当な批判や風評を防ぐことができる」と考える。		観点から歩行者及び自転車の通行空間の確保を目的とした道路整備や安全かつ円滑な道路交通の確保を目的とした道路使用及び占有について明記しております。 また、本市では「長岡市景観アクションプラン」に基づき、景観や歴史的建造物等の保全に取り組んでいるため、原案のとおりとさせていただきます。
14	公共交通の利便性向上には賛成だが、現状では平日朝夕以外は利用が少なく空気輸送に近いように思える。また、運転手不足も深刻という報道もよく見かける。そのような状況で、本数維持や増便、利便性向上をどのように行うのか。 また、バスの定時運行と遅延の路線のばらつきや、同時刻に複数便が集中する非効率なダイヤにも課題がある。世代が下がるほど待ち時間を嫌う傾向があるため、ダイヤの見直しや運行時間の調整が必要であり、利用が少ない区間については予約制タクシーなどへの転換といった大胆な見直しが求められる。	1 4 1 5	ご指摘のありました利用実態に応じた運行の見直しや効率的なダイヤ編成、地域の需要に応じた輸送サービス等の検討につきましては、本計画において「市民・交通事業者・行政の三者が連携・協働して持続可能な公共交通の実現に取り組みます」とありますとおり、市民、交通事業者、行政が協力して、将来にわたり利用できる公共交通の維持・確保に取り組むこととしているため、原案のとおりとさせていただきます。 今後策定する「長岡市地域公共交通計画」及び計画に基づくアクションプランの中で、地域の実情や利用状況等を踏まえながら具体的な取り組みを検討してまいります。
15	路肩の砂利が自転車に対し危険なので改善してほしい。	全般	路肩に砂利が堆積する等、自転車の転倒の原因になる事象は、安全確保の観点に置いて適切な維持管理が必要と認識しております。 ご指摘のような不具合が発見された場合は、電話又はスマートフォンアプリ「LINE」の長岡公式アカウントで通報できます。引き続き、安全で安心してご利用いただける道路環境の確保に努めてまいります。
16	押しでもすぐ変わらない押しボタン信号で待ちきれない人や押さずに渡る人がいて危険なため、すぐ変わる方式に見直してほしい。	全般	押しボタン信号は、他の交差点の信号機と連動しており、他の交差点の信号の状態により時間が変化することから、個別に押しボタン信号の周期を変更することはできないため、お待ちいただく場合があることご理解ください。

17	公共施設等での公共交通補助を行ってほしい（現在は駐車場のみだが、モビリティマネジメントの観点から不公平を感じる）。	全般	公共施設における公共交通利用への補助制度の導入につきましては、制度設計や財政負担、他の施策との整合性など、幅広い観点からの検討が必要であるため、今後の施策推進にあたり参考とさせていただきます。
18	バス専用信号のみ赤になりかえって遅れが生じていることがあるので改善してほしい（長生橋西詰の交差点で見かける）	全般	バス専用信号は、路線バスの定時運行の確保を目的として設置しておりますが、道路全体の交通混雑や規制時間帯における一般車両のバス専用レーンの走行等により、遅れが生じることがあります。 また、ご指摘いただきました長生橋の車道につきましては、片側1車線での通行となっております。現時点では片側2車線への改良計画はございませんが、交通環境の改善に関するご意見として道路管理者や警察等と情報共有させていただきます。 今後とも、関係機関と連携を図りながら、道路交通全体の円滑化と安全性の向上に努めてまいります。
19	踏切の拡幅の推進をしてほしい。殿町踏切は殿町から台町商店街まで移動しやすくなり街にも活気が出てきている。	全般	ご提案いただきました踏切の拡幅につきましては、踏切利用者の安全確保や交通の円滑化の観点から、その必要性を認識しております。 一方で、踏切の改良には鉄道事業者との協議をはじめ、周辺道路との接続状況や用地の確保のほか、多額の事業費を要するなどの課題があります。そのため、事業化に当たっては、交通量や安全性の向上効果、緊急性などを総合的に勘案する必要があります。 今後につきましては、地域要望に基づき、道路整備の状況や地域の交通実態等を踏まえながら、関係機関と情報共有を図り、踏切拡幅の必要性や事業効果、実現可能性について研究してまいります。
20	古い歩道の段差の縮小や傾斜の修正をしてほしい。ベビーカーが躓き、また傾斜でカーブして危険である。ベビーカーがこんなに繊細だと	全般	昭和から平成初期に整備された歩道の多くは、現在の基準と比べて段差や横断勾配が大きいマウンドアップ型歩道となって

	は知らなかった。	います。このため、本市では、長岡市交通バリアフリー道路特定事業計画に基づき、長岡駅周辺や千秋が原地区において、主要な公共施設等への経路を中心に歩道の段差解消などを進めてきました。 一方で、既設歩道の全面的な改築には、車道や排水施設の再整備を伴うため、多くの時間と費用を要します。このため、現在は道路の安全確保の観点から、舗装の補修や陥没への対応などを優先しながら維持管理を行っております。 ご意見の趣旨は、今後の道路整備を進める上での参考とさせていただきます。
--	----------	---